

アンケート調査からみた保育者養成校における 総合的な表現活動に関する授業の実施状況

智 原 江 美
鍋 島 惠 美
和 田 幸 子
田 中 慈 子

I 研究の背景

「保育者養成における領域『表現』へのクロスカリキュラム導入」に関する研究の一環として、平成26年に「幼稚園・保育所における『表現』領域の活動に関する調査」を実施し、本学紀要第53号においてその結果を報告した¹⁾。今日の多様な保育ニーズに対応できるよう、保育内容、保育者の質の充実が重要になってきており、幼稚園教諭・保育士には各種の領域の専門的な知識・技能は言うまでもなく、多領域にわたる総合的な実践力が求められている。活動を様々に展開できる実践力を備えた保育者を養成するために各科目の専門性に重点を置きつつ、養成校での科目を横断的に連携させたクロスカリキュラムでの活動を実践することは、保育における総合的な実践力養成の観点から重要である。中でも表現領域にかかわっては、子ども一人ひとりの思いを受けとめ感性豊かな表現活動に発展させることができるよう、単独の領域だけでなく複数の領域にわたる総合的な表現能力の習得が必要となってくる。

そこで、養成校が表現領域に関してどのような内容の授業を実施しているのか、また、表現領域を重複させた総合的な表現活動の有無とその内容についてのアンケート調査を実施したので、その調査結果の検討から明らかになったことを報告する。なお調査の目的、データの取り扱いに同意した方を対象にアンケート調査を実施し、調査実施と調査結果のとりまとめに当たっては特定の養成校名及び個人名が出ることをないよう注意を払った。

II 研究方法

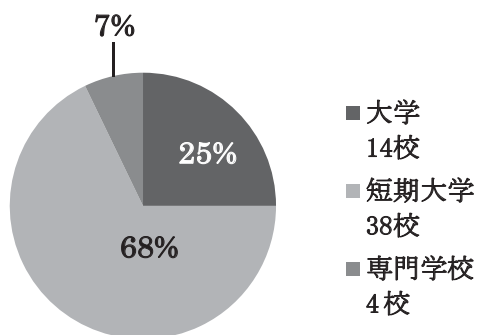
全国に約600校ある国立・公立・私立の幼稚園教諭・保育士養成課程を有する大学・短期大学・専門学校より、地域が偏らないよう200校を無作為に抽出し、平成28年1月に「保育者養成校における『表現』領域の授業にかかわる調査」を郵送方式で実施した。調査票を郵送した養成校種別の内訳は大学83校、短期大学97校、専門学校20校で、「表現」領域を担当する教員に回答を依頼した。

調査用紙質問項目の構成は、「保育者として表現領域の活動を実施する際に必要となる保育者の資質・技能」に関する質問と「保育者養成校で実施している領域を重複（クロス）させた表現領域にかかわる授業」についての2つの観点から調査用紙を作成した（資料参照）。

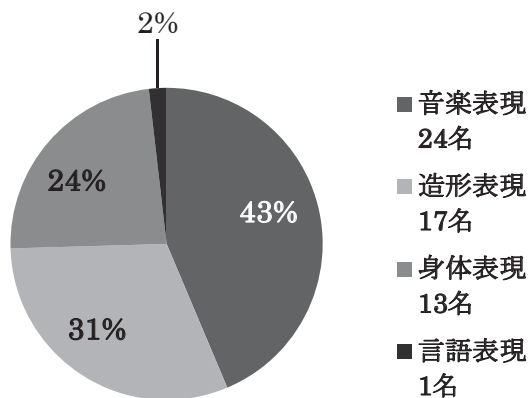
III アンケート調査結果および考察

1. 回答を得た養成校・回答者について

平成28年2月末までに、調査票を郵送した200校の養成校のうち、大学13校、短期大学37校、専門学校5校、計55校より回答を得た（質問1）。回収率は27.5%であった（校種別では大学15.7%、短期大学38.1%、専門学校25.0%）。質問2で尋ねた回答者の専門領域の内訳は、音楽表現24名、造形表現17名、身体表現13名、言語表現1名、その他9名であった。質問2では回答者の性別を尋ねたが表現領域の活動に関する検討内容には直接関係しない項目であるので、今回の報告からは割愛する。



図表 1. 回答を得た養成校の種類



図表 2. 回答者の専門領域

2. 保育者の専門性と表現の授業について

まず、質問 4 から質問 6 において、保育者に必要と考える知識・技能について尋ねた。

質問 4 では「保育者の専門性として重要と考える事柄」について 6 つの項目^{2),3)}をあげ、それぞれの項目について重要度を 5 段階で選択する方式の回答を得た。図表 3 に示すように 6 項目すべてにおいて「非常に重要」、「重要」とする回答がほとんどであった。

中でも「表現活動に関する豊かな感性」を「非常に重要」と考える回答は 80% 近くを占めた。次に「非常に重要」の回答が占める割合が多かったのは「子どもの発達を具体的な表現活動に結びつける能力」で約 70% であった。養成校教員は「表現活動に関する豊かな感性」と「子どもの発達を具体的な表現活動に結びつける能力」が保育者としての重要な資質・能力であると捉えていることがわかる。

「教材を作成・活用する能力」「表現活動の指導法の習得」「ねらいに則した遊びを豊かに展開するための

技術」については「非常に重要」「重要」とも約 50% ずつであった。唯一「表現活動に関する技能」については「重要」ととらえる回答が約 70% であり、「非常に重要」の約 30% を大きく上回った。これらの回答から、養成校の表現領域担当教員は保育者の資質として技能も重要ではあるが、技術・技能を習得することだけを求めるのではなく、豊かな感性をもって子どもの様々な表出を受けとめる力を備えていることが必要と考えていると言える。

質問 5 では質問 4 と同様の項目をあげ、「養成校における表現領域の授業実施に際して重要と考える事柄」について重要度を 5 段階で尋ねた。

ここでも最も多く「非常に重要」とされた項目は「表現活動に関する豊かな感性」であり、ついで「子どもの発達を具体的な表現活動に結びつける能力」となり、「保育者の専門性として重要と考える事柄」とほぼ同様の順位となった。「表現活動に関する技能」「表現活動の指導法の習得」に関しては「非常に重要」とあげ

図表 3. 保育者の専門性として重要と考える事柄

(%)

	重要でない	あまり重要でない	どちらでもない	重要	非常に重要
表現活動に関する豊かな感性	0	0	1.8	20.0	78.2
表現活動に関する技能	0	0	0	69.1	30.9
教材を作成・活用する能力	0	0	0	49.1	50.9
表現活動の指導法の習得	0	0	0	47.3	52.7
ねらいに則した遊びを豊かに展開するための技術	0	0	0	45.5	54.5
子どもの発達を具体的な表現活動に結びつける能力	0	0	0	29.1	70.9

図表 4. 養成校における表現領域の授業実施に際して重要と考える事柄 (％)

	重要でない	あまり重要でない	どちらでもない	重要	非常に重要
表現活動に関する豊かな感性	0	0	3.6	27.3	69.1
表現活動に関する技能	0	1.8	3.6	56.4	38.2
教材を作成・活用する能力	0	1.8	3.6	45.5	49.1
表現活動の指導法の習得	0	1.8	3.6	56.4	38.2
ねらいに則した遊びを豊かに展開するための技術	0	0	5.5	41.8	52.7
子どもの発達を具体的な表現活動に結びつける能力	0	0	3.6	41.8	54.5

た回答は最も少なく、養成校の授業においても表現領域担当教員は単なる技能習得だけに偏らないような意図を持って指導していることがうかがえる(図表4)。

質問6では質問4、5で重要度を尋ねた項目を選択肢としてあげ、そのうち「養成校で習得してほしいと考える事柄」を選ぶ形式で尋ねた(複数回答可)。

最も多かったのは「教材を活用する能力」、ついで「表現活動の指導法の習得」、「表現活動に関する技能」があがり、授業の成果として学生が習得する事柄として期待することは知識・技能的な内容であった。また、その他として、「遊びとしての要素」「子どもを感じよう、理解しようとする姿勢」「子どもの内的活動と外的活動の理解」という回答がみられた(図表5)。

3. 開講されている表現領域の授業について

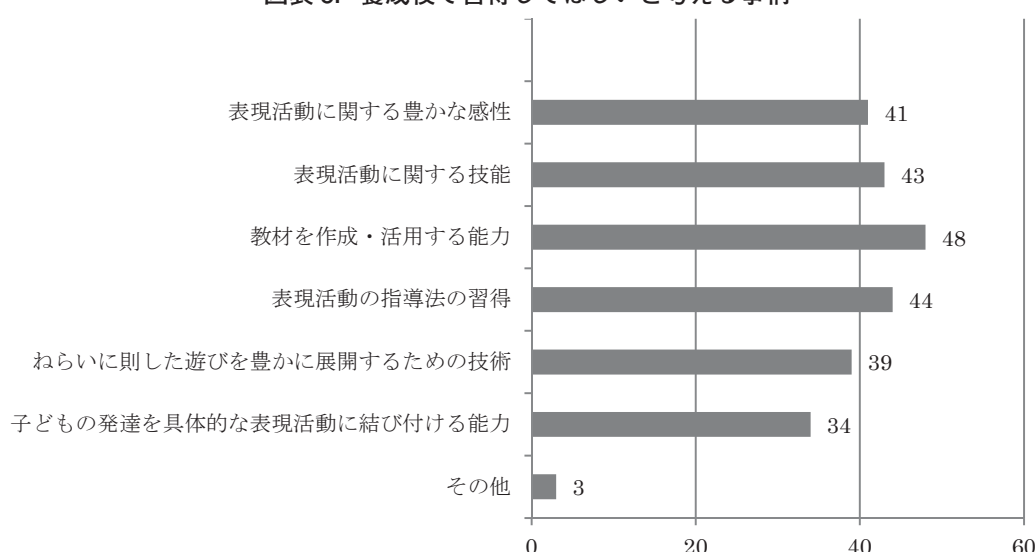
質問7では、回答者が担当している表現領域にかかわる授業科目名を尋ねたところ、図表6のような科目

名があがった。

科目名としては「保育内容(表現)」といった一般的な科目名が多くみられた。科目名からだけでは授業内容を推し量ることは難しいが、「保育表現技術(総合表現の基礎)」「保育表現技術(総合表現の応用)」といった、総合的な表現活動を意識した科目名や、「個性と表現」「劇的表現」といった独自性を出した科目名も見られた。

質問8では表現領域にかかわる科目の配当年次を尋ねた。回答のあった養成校の表現領域にかかわる科目の配当年次を図表7に示す。修業年限の短い短期大学では当然のことではあるが、1年前期から表現に関係する科目を多く開講している。特に音楽表現にかかわる科目は1年前期から2年間にわたって多く開講されている。ピアノの演奏技術の習得には継続的な取り組みが必要であるからと推測できる。造形表現や身体表現にかかわる科目は1年後期から2年前期にかけて多

図表 5. 養成校で習得してほしいと考える事柄



図表 6. 担当する表現領域にかかわる科目名

専門領域	担 当 科 目 名
音楽表現	「保育内容表現」「子どもの音楽総合」「音楽表現指導法」「総合表現活動」 「領域『表現』（指導法）」「保育内容研究『音楽表現』」「表現演習」 「保育内容（音楽表現）」「保育内容（表現）」「表現ⅠA」「子どもと表現Ⅰ（音楽）」 「保育内容表現（リズム）」「保育内容演習（表現音楽活動）」「保育の表現技術（音楽）」 「表現技術研究」「総合表現活動」
造形表現	「保育内容表現（美術）」「保育内容表現（造形表現）」「保育美術」「造形遊び実践法」 「幼児美術」「図画工作」「造形」「図工演習」「保育内容表現（文化）」「幼児造形」 「造形表現技術」「こどもと表現」「保育内容の指導法・表現Ⅱ」「造形表現法」
身体表現	「身体表現指導法」「保育内容C」「保育内容・表現Ⅰ」「保育内容演習（表現）」 「個性と表現」「保育表現技術（総合表現の基礎）」「保育表現技術（総合表現の応用）」 「表現・人間関係・環境」「幼児の表現」
言葉表現	科目名の明記なし
複数領域 またはその他	「保育内容（表現）」「保育内容研究（表現）」「保育内容指導法（表現）」 「劇的表現」

図表 7. 表現にかかわる科目の配当年次

(単位：例)

校種	領域	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
大学 (回答9校)	音楽	3	4	4	3	3			
	造形	2	2	5	2	3	1		
	身体	2	2	4	3		2		
	言語	4	2	1	3		1		
	その他			2	1	1			
短期大学 (回答26校)	音楽	17	17	11	11				
	造形	11	15	16	8				
	身体	6	7	14	5				
	言語	9	10	7	3				
	その他	4	10	7	9				
専門学校 (回答3校)	音楽	2	1	1	2				
	造形	1	2	3	1				
	身体	2		1	3				
	言語	1		1	1				
	その他				2				

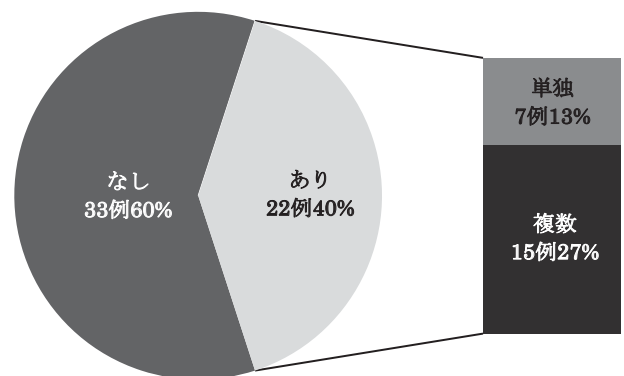
く開講されている。しかし同じ修業年限の専門学校は1年次よりも2年次に開講される傾向にあった。

一方、大学では1年前期から3年後期にかけて比較的長期にわたり継続して表現にかかわる科目が開講されているが、2年前期が最多であった。

4. 領域を重複させた授業について

質問9～14で、2領域を重複した授業内容6種の有無を尋ねた。

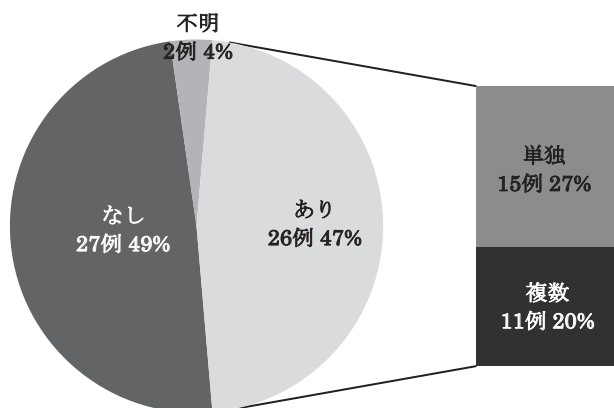
まず、音楽表現と造形表現の重複した授業は55回答中22例で行われており(図表8)、内15例は複数の教員で担当している。授業内容は、耳を澄まして聞



図表 8. 音楽表現と造形表現を重複させた活動の有無

こえる音を絵で表すというような「音を描く」活動、わらべうたや唱えことばの「歌詞内容を描く」活動、手作り楽器のように「作って鳴らす」活動のほか、ミュージカル・オペレッタ・影絵のような総合芸術への取り組みが挙げられた（質問9）。

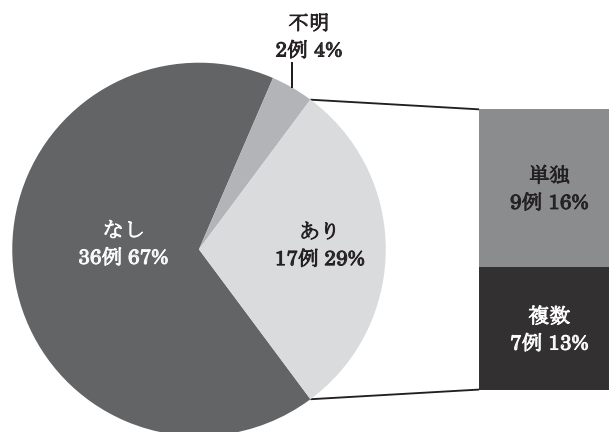
音楽表現と身体表現の重複した授業は、55回答中26例で行われており（図表9）、そのうちの15例は単独の教員で、11例は複数の教員で担当している。単独の教員で行っている授業内容としては、わらべうた・リトミック・鑑賞教材を用いた身体表現・創作ダンスなど「音を動きで表す」活動が挙げられた。また、複数の教員で行っている授業では、ミュージカル・オペレッタを総合表現として取り組んでいる例が多数見られた（質問10）。



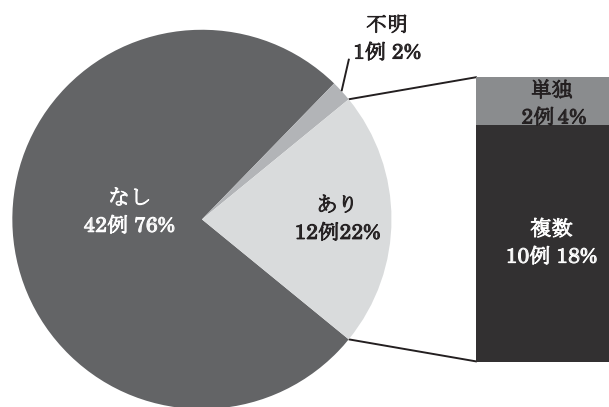
図表9. 音楽表現と身体表現を重複させた活動の有無

次に音楽表現と言葉表現の重複した授業は、55回答中17例で行われていた（図表10）。そのうちの9例は単独の教員で行っており、授業内容としてはわらべうた・音楽ゲーム・手遊び・言葉あそび・唱え歌から旋律を外して唱え言葉にする活動が挙げられた。また、複数の教員で行っている7例の授業内容は、ここでも総合表現としてのミュージカル・オペレッタが多く見られた。その他、歌やリズムを手掛かりに身体表現活動をしている例があった（質問11）。

造形表現と身体表現との重複した授業は52回答中12例で行われており、内10例は複数の教員で担当している（図表11）。授業内容は、色を身体表現するように「イメージを表現」すること、人形や絵カードなど「作ったものの動きを身体表現に写す」ことのほか、ミュージカルのような総合芸術への取り組みが挙



図表10. 音楽表現と言葉表現を重複させた活動の有無

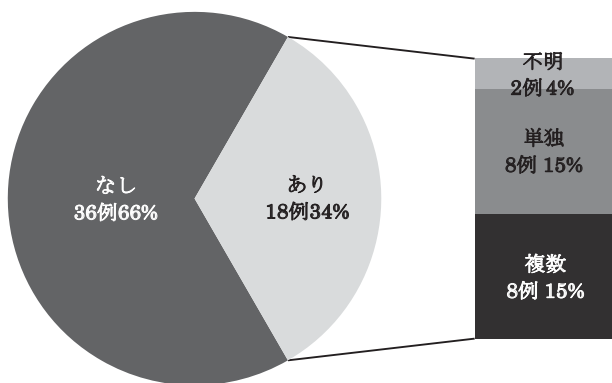


図表11. 造形表現と身体表現を重複させた活動の有無

げられた（質問12）。

質問13については、図表12に示すように、造形表現と言語表現の重複した授業は55回答中18例で行われており、内8例は複数の教員で担当している。授業内容は、タイトルを「総合表現」としており具体的な取り組みは、「ミュージカル」「ミュージカル創作と実演」「紙芝居制作と実演」が挙げられた。

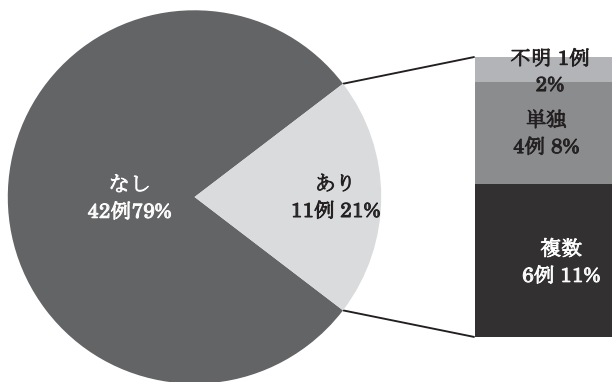
一方で、単独で担当している8例では、造形表現での授業内容としては、「影絵」「ペープサートの制作と発表会」などの取り組みが挙げられ、言語表現では、「紙芝居制作」「手作り絵本」「唱え言葉」「幼児劇の制作」などの取り組みが挙げられた。どの授業での取り組みかは不明ではあるが、「お話の表現」「母音のイメージの絵画表現」があげられた。特に、総合表現の取り組みの中では、子どもの前で発表や実演の機会を授業内



図表 12. 造形表現と言葉表現を重複させた活動の有無

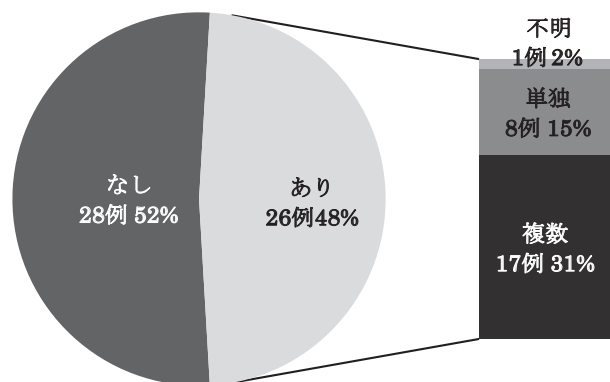
で持つことが、学生自身の達成感を高め今後の意欲につながり重要であるとの回答がみられた。

質問 14 については、図表 13 に示すように、身体表現と言語表現の重複した授業は 55 回答中 11 例で行われており、その内 6 例は複数の教員で担当している。授業内容は、タイトルを「総合表現」としており具体的な取り組みは「ミュージカル創作と実演」が挙げられた。一方で、単独で担当している 4 例では、「母音のイメージを表現」という取り組みが挙げられ、どの授業での取り組みかは不明ではあるが、「オペレッタ」「素話」「言葉の韻やリズム感の表現」があげられた。特に、総合表現の取り組みの中では、子どもの前で実演の機会を授業内で持つことが、学生自身の達成感を高め今後の意欲につながり重要であるとの質問項目 13 と同様の回答がみられた。



図表 13. 身体表現と言葉表現を重複させた活動の有無

最後に 3 領域以上の重複について尋ねた（質問 13）。図表 14 に示すように、3 領域以上を重複させた活動の実施している回答が 26 例、実施していない回答は 28 例であった。実施している場合の担当者の内訳は、単独教員での実施が 8 例、複数教員での実施が 17 例、不明が 1 例であった。3 領域以上を重複させた表現領域の授業の活動内容として 19 例が上がり、その活動例は図表 15 に示す。



図表 14. 3 領域以上を重複させた活動の有無

図表 15. 3 領域以上を重複させた表現領域の授業の活動例

領域	例数	活動内容例
音楽・造形・身体表現の重複	4 例	オペレッタ 手作り楽器に身体表現を加える
音楽・身体・言語表現の重複	1 例	リズムに合わせて体を動かしながらことば遊び
4 領域の重複	14 例	ミュージカル・オペレッタの制作と上演（7 例） わらべ歌を取り入れた遊び 総合的な創作活動 絵本を題材にした色・形・音・動きの融合化 クレヨン遊び お話しづくり 音楽（ピアノ）を合わせた活動

質問 9～14 の回答にも見られたように、領域を重複させた総合的な表現活動として、養成校で実施されている活動の多くは、劇、ミュージカル、オペレッタなどの創作と上演であることがわかる。これらは保育現場でも多くの園で取り込まれている活動であり、養成校の学生にとっても活動としてのイメージを持ちやすい代表的な活動例と言えよう。

今回の調査では、劇、ミュージカル、オペレッタ以外の総合的な表現活動として、次のような事例があった。

- ・ 唱え歌から旋律を外して唱え言葉にする活動 (音楽×言葉)
- ・ 色を身体表現するようにイメージを表現する (造形×身体)
- ・ 人形や絵カードなど作ったものの動きを身体の表現に写す (造形×身体)
- ・ 耳を澄まして聞こえる音を絵で表すというような音を描く活動 (音楽×造形)
- ・ わらべうたや唱えことばの歌詞内容を描く活動 (言葉×造形)
- ・ 音を動きで表す (音楽×身体)
- ・ 母音のイメージの絵画表現 (言葉×造形)
- ・ お話の表現 (言葉×造形)
- ・ リズムに合わせて体を動かしながらことば遊び (音楽×身体×言語)
- ・ 手作り楽器に合わせて身体表現活動を行う (音楽×造形×身体)
- ・ 絵本を題材にした色・形・音・動きの総合化 (4領域)

これらの活動は表現領域担当教員が、総合的な表現活動を意識しながら工夫した取り組みであると言える。

5. 表現領域の授業実施について

質問 16～19 では、養成校での授業実施について尋ね、記述形式での回答を得た。

まず、質問 16 では、表現領域の授業を実施する際に工夫している事柄を尋ねた。表現領域授業に際して工夫していることでは、「ねらいを板書」「手順の説明」「講義の後に実技を」等、授業の進行に関する事、「自分の感性に気づき」「他学生の感性に気づき」「表現を受けとめる」ことを目的としたグループワークと相互発表の機会を設けていること、リラックスできる雰囲気作りへの配慮があげられた。

次に質問 17 では、授業実施における面白さについて尋ねた。面白さについては、「心が開放され自由に表現できる」「発表(表現)する達成感、感動、楽しさを味わえる」「表現を通して子ども理解が広がる」「予想外の表現、多様な表現方法がある」「子どもの感性

と共に成長しようとする」「正解がない」等、学生の資質に関する事、「想像力から創造力を養成できる」「学生一人ひとりの個性や感性がみえてくる」「学生と共に創れる」「教員側の工夫次第で可能性が広がる」「他領域とつなげられる」「複数担当教員の場合、各専門に関する意見交換ができ協力できる」等、教員の資質や気づきに関する事が挙げられた。

質問 18 で尋ねた授業実施における困難として、学生の傾向としては「音楽や造形技術の個人差」「表現に対する苦手意識」「子どもの実態把握の希薄さ」などが挙げられ、その学生に対しての援助として「苦手意識解放」「表現やイメージの誘発」「子どもの発達と表現活動の整合性の理解」「個々の表現からグループ表現活動への融合性」などが挙げられた。授業者としての困難さは、「実践の理解」「教材準備時間の確保」や、単独の場合は「専門性を超えた深い知識を学ぶ時間の確保」、複数担当の場合は、「共通理解を図る時間の確保」「評価基準の選定」が挙げられた。

さらに質問 19 では、養成校学生が在学中に経験・習得しておくと思われたいことを自由記述で尋ねた。回答はおおよそ 4 つの内容に分かれた。まず、「知識・技能」に関した内容として、ピアノの技能の習得、様々な素材に触れるといった各領域の最も基本的な知識・技能の習得に関して、リトミック、ボディーランゲージ、お手玉といった特定の技能の習得に加え、教材の作成のノウハウ、発達段階の理解と発達に合わせた指導内容の理解といった知識的なことがあがった。第二に、子どもの表現をとらえる機会を持つ、行事等での経験、実践での指導経験、子どもとともに味わうなど、実践経験を積むことの重要性についての回答も見られた。第三に、本物に触れる、質の高いものに触れる、表現の広がり、面白さ、自分自身が楽しむ、自然と関わる、上位概念である表現の意味の理解、表現は融合されたものであることの認識と言った、授業内のみでは習得の難しい、表現活動の本質にかかわった、感性の習得の重要性があげられた。その他として、人間関係の中で感性を磨く、集団活動・グループダイナミズムの経験、心の解放などの項目があがった。

IV まとめ

今回のアンケート調査は幼稚園教諭・保育士養成課

程を有する200校の大学・短期大学・専門学校に調査用紙を郵送したが、アンケート調査の回収率は約30%であった。回収率からだけでは一概に判断できないことではあるが、総合的な表現活動に関心のある養成校の表現領域担当者はまだ少ないと考えられる。特に大学の表現領域担当教員からの本調査の用紙の回収率は15.7%と低く、表現の各専門領域担当者間の共同が行いにくい状況にあることが推測される。

質問9～14の2領域、質問15の3領域を重複した授業内容についての回答から、領域を重複した授業内容について、二つのとらえ方があることが推測される。第一は、ミュージカル、オペレッタのような総合芸術への取り組みである。これは多くの幼稚園、保育園の発表会で子どもたちに取り組みさせていることから、保育者養成校でも為されていると考えられる。従来、養成校での表現領域授業の集大成として取り組まれてきた劇・ミュージカル・オペレッタなどの創作と上演は、学生の協同的な活動の体験、グループダイナミズムの実践などの意図をもって様々な工夫をされながら実施されてきている。担当教員もそれぞれのめあてを持って取り組んでおり、養成校学生が経験することは意味のある活動と言えるが、本来の子どもの総合的な表現活動を考えたときに、もっと多様な取り組みがあってもよいと考えられる。

第二は、各領域の活動要素を意識的に取り出し、そこに他領域の活動を掛け合わせて経験させるものである。例えば、音に耳を傾け色や筆圧を変えて描き、音色に対しての感性を豊かにするというものである。これは、学生の感受性を高め、多様な表現方法を探る機会となる。また、心の動きのままに表現する幼児のあり方への理解を深める機会となる。

保育者養成校での表現領域の授業改善を考える際、後者について熟考し、その実践具体案を提示していきたいと考える。幼稚園教育要領⁴⁾および保育所保育指針⁵⁾「表現」の内容には「生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ」とあり、これらの活動素材の特徴を体験する際に、領域を重複した内容となっていくからである。また「感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする」ことは、領域を重複した総合表現であるからである。

得られた解答例として多くはないが、総合的な表現

活動を意識した活動に取り組んでいる事例もいくつか見られた。養成校で実施されている複数の領域を重複させた表現活動としては、音楽表現と重複させた活動が最も多かった。このことから、音楽表現担当教員がどの程度他の表現領域の教員と連携して総合表現活動を実施できるか、また、他の領域からの連携の取り組みに対応できるかが大きな鍵になるであろう。

平成26年度実施の保育現場へのアンケート調査では表現活動を実施する際に必要な知識・技能として、また養成校学生が習得しておくべきこととして「感性」が最も重要であるという結果を得たが¹⁾、今回の養成校を対象とした調査においても表現領域を担当する教員も保育者の資質として、また授業実施においても「感性」を最も重要と考えていた。しかし、養成校学生に修得してほしいと考えるのは「教材を作成・活用する能力」であり、「感性」は養成校在学中の表現領域の授業のみで習得できるものではない。個々の養成校学生の生育環境や経験の違いにより感性・創造性には大きな差がある。とりわけ近年は創造的な活動に主体的に取り組めない学生が増加する傾向にあり、各教員は感性豊かな保育者を育てるためのさらなる工夫が必要となってくる。そのためにも、「授業の進行をわかりやすく」、「リラックスできる雰囲気作り」が大切であり、教員自身も教授内容の工夫や教授技術の研鑽が求められることとなる。

また、「グループワーク相互発表」を学生が経験することも含め、養成校学生は自分たちの表現活動を子どもの前で見せる経験も重要であり、そうすることによって自分達自身の達成感を得ることができる。さらに子どもの様々な表現どのように受け止めるかも貴重な経験であると言える。

V 総括と今後の展望

劇やオペレッタ・ミュージカルにおける歌・道具作り・上演という一連の活動は総合芸術であり、そこに含まれる活動をオムニバス形式の授業で実施することで総合的な表現活動と捉えて実施している例が今回の調査では多くみられた。一方、音楽表現、造形表現、身体表現、言葉の表現などが混在した状態で「遊び」として経験される子どもの表現を尊重し、さらに充実した保育実践へと立ち上げていくための総合表現とい

う捉え方をし、授業内容を模索している養成校教員の様子も見られた。総合表現についての理解は養成校学生にとって大切であり、そのためには各専門領域の基本的な知識・技能の習得が前提となる。表現領域担当教員は基本的な専門知識・技能を養成校学生に習得させつつ、単独の表現活動にとどまることなく子どもの自由で総合的な表現に寄り添い、それらを受け止めることのできる保育者養成に努めなければならない。つまり、各領域の専門性に重点を置きつつ、横断的に連携させた活動を検討することが今後保育者養成教育に求められるであろう。その際には、複数の教員での協同的な授業開発への取り組みが不可欠である。

既存の枠組みが存在する養成校カリキュラムの中で実現可能な方法で感性を育むことのできるような授業開発に取り組んでいきたい。

本稿は、全国保育士養成協議会第55回研究大会において行ったポスター発表「保育者養成における総合的な表現活動の実態を問う—養成校を対象にしたアンケート調査に着目して—」に加筆したものである。また、本調査は文部科学省科学研究費補助金〈基盤研究(c) 26381297 (平成26年度～平成28年度)〉の助成を得て実施した。

参考・引用文献

- 1) 智原江美・鍋島恵美・和田幸子・下口美帆・田中慈子, 「幼稚園・保育所における表現領域の活動に対応した保育者養成のあり方—京都府南部の幼稚園・保育所へのアンケート調査からの検討—」 京都光華女子大学研究紀要第53号 pp119-134
- 2) 全国保育士養成協議会, 「保育者の専門性についての調査—養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み—」 2012, 全国保育士養成協議会平成24年度専門委員会課題研究報告書を参考に作成
- 3) 全国保育士養成協議会, 「保育者の専門性についての調査—養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み(第2報)—」 2013, 全国保育士養成協議会平成25年度専門委員会課題研究報告書を参考に作成
- 4) 文部科学省, 「幼稚園教育要領解説」2008, フレーベル館
- 5) 厚生労働省編, 「保育所保育指針解説書」2008, フレーベル館

資料

保育者養成校における「表現」領域の授業に関する調査

この度、実践力を備えた保育者を養成するため、「保育者養成における領域「表現」へのクロスカリキュラム導入に関する検討」のテーマのもと、保育者養成校での科目を連携させた活動の有効性について検討することを目的として、貴校で実施されている「表現」領域の授業に関する調査のお願いをたく思います。回答につきましては「表現」領域の授業をご担当の先生に、貴校で実施されている表現領域の授業に関してお答えいただけますようお願い申し上げます。

回答は選択肢の中からあてはまるものに○をつける回答方法ですが、回答欄に自由に内容を書き込む質問もあります。個人情報取り扱いには十分配慮し、調査票は無記名式で、調査結果は統計的に処理いたします。回答者やその勤務先に迷惑をかけることのないよう、万全の配慮をいたしますので、率直で忌憚のないお考えやご意見をください。

大変ご多忙の時期に誠に恐縮と存じますが、調査のご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、ご記入いただきました調査票は、2月26日(金)までに返信用封筒に入れてご返送いただきますようお願い申し上げます。

平成 28 年 1 月 吉日

京都光華女子大学子ども教育学部子ども教育学科

智原 江美(研究代表者)

鍋島 惠美・和田 幸子・田中 慈子

問い合わせ先: TEL: 075-325-5498

FAX: 075-325-5302

E-mail: emi-chr@mail.koka.ac.jp

はじめにあなたが勤務されている養成校についてお伺いします。

1. 貴校についてあてはまるもの1つに○をつけてください。
1. 大学 2. 短期大学 3. 専門学校 4. その他()

次に、回答者ご自身についてお伺いします。

2. 性別をお答えください。
1. 女性 2. 男性
3. 「表現」領域のうち、ご担当分野をお答えください。
1. 音楽表現 2. 造形表現 3. 身体表現 4. 言語表現 5. その他

4. 回答者の方が表現活動における保育者の専門性を考える場合、以下のような内容にかかわる知識・技能はどのくらい重要であると考えますか。あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

1. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動に関する豊かな感性	保育者の専門性として重要でない	1	2	3	4	5
2. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動に関する技能	保育者の専門性として重要でない	1	2	3	4	5
3. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動にかかわる教材などを子どもの発達に合わせて作成・活用する能力	保育者の専門性として重要でない	1	2	3	4	5
4. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動の指導法の習得	保育者の専門性として重要でない	1	2	3	4	5
5. 保育のねらいに則し、子どもの遊びを豊かに展開するための技術の習得	保育者の専門性として重要でない	1	2	3	4	5
6. 表現活動の観点から子どもの発達をとらえ、具体的な表現活動に結びつけることができる能力	保育者の専門性として重要でない	1	2	3	4	5

貴校の表現領域授業について、お聞きします。
7. ご担当の、「表現」にかかわる授業科目名(「保育の表現技術・基礎技能」を除く)をお答えください。

- ()
8. 貴校の表現領域授業について、配当学年を教えてください。複数の場合 2 科目までお答えください。
- 音楽表現にかかわる授業(年生 前期/後期 回開講)(年生 前期/後期 回開講)
 - 造形表現にかかわる授業(年生 前期/後期 回開講)(年生 前期/後期 回開講)
 - 身体表現にかかわる授業(年生 前期/後期 回開講)(年生 前期/後期 回開講)
 - 言語表現にかかわる授業(年生 前期/後期 回開講)(年生 前期/後期 回開講)
 - その他()の表現領域にかかわる授業
(授業名 年生 前期/後期 回開講)
(授業名 年生 前期/後期 回開講)

領域を重複した授業内容の有無をお聞きします。

9. 音楽表現と造形表現を重複した授業内容はありますか
1. ある 2. ない
あると答えた方
1. 単独の教員が担当している 2. 複数の教員で担当している
(音楽表現授業内で行っている・造形表現授業内で行っている・両方の授業内で行っている)
(その他))
(活動例))
10. 音楽表現と身体表現を重複した授業内容はありますか
1. ある 2. ない
あると答えた方
1. 単独の教員が担当している 2. 複数の教員で担当している
(音楽表現授業内で行っている・身体表現授業内で行っている・両方の授業内で行っている)
(その他))
(活動例))
11. 音楽表現と言語表現を重複した授業内容はありますか
1. ある 2. ない
あると答えた方
1. 単独の教員が担当している 2. 複数の教員で担当している
(音楽表現授業内で行っている・言語表現授業内で行っている・両方の授業内で行っている)
(その他))
(活動例))

5. 回答者の方は表現領域の授業において、以下のような内容にかかわる知識・技能はどのくらい重要であると考えますか。あてはまるもの 1 つに○をつけて下さい。

	表現領域の授業において重要でない	表現領域の授業においてあまり重要でない	どちらでもない	表現領域の授業において重要である	表現領域の授業において非常に重要である
1. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動に関する豊かな感性	1	2	3	4	5
2. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動に関する技能	1	2	3	4	5
3. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動にかかわる教材などを子どもの発達に合わせて作成・活用する能力	1	2	3	4	5
4. 身体・音楽・造形・言語等の表現活動の指導法の習得	1	2	3	4	5
5. 保育のねらいに即し、子どもの遊びを豊かに展開するための技術の習得	1	2	3	4	5
6. 表現活動の観点から子どもたちの発達をとらえ、具体的な表現活動に結びつけることができる能力	1	2	3	4	5

6. 4の質問項目である保育の専門性(1~6)に関して、大学で習得してほしいと思われるものすべての番号に○をつけてください。

- 感性
- 技能
- 活用能力
- 指導法
- 展開するための技術
- 統合能力
- その他 ()

12. 造形表現と身体表現を重複した授業内容はありますか
 あると答えた方
 1. ある 2. ない
 (造形表現授業内で担当している 2. 複数の教員で担当している
 (身体表現授業内で担当している・両方の授業内で担当している)
 (その他)
 (活動例)

13. 造形活動と言語表現を重複した授業内容はありますか
 あると答えた方
 1. ある 2. ない
 (造形表現授業内で担当している 2. 複数の教員で担当している
 (言語表現授業内で担当している・両方の授業内で担当している)
 (その他)
 (活動例)

14. 身体表現と言語表現を重複した授業内容はありますか
 あると答えた方
 1. ある 2. ない
 (単独の教員で担当している 2. 複数の教員で担当している
 (身体表現授業内で担当している・言語表現授業内で担当している)
 (その他)
 (活動例)

15. 音楽・造形・身体・言語表現の中の3つ以上が重複した授業内容はありますか
 あると答えた方
 1. 単独の教員で担当している 2. 複数の教員で担当している
 (その活動に○印をつけてください [音楽 ・ 造形 ・ 身体 ・ 言葉 ・ その他]
 (活動例)
 (その活動に○印をつけてください [音楽 ・ 造形 ・ 身体 ・ 言葉 ・ その他]
 (活動例)
 (その活動に○印をつけてください [音楽 ・ 造形 ・ 身体 ・ 言葉 ・ その他]
 (活動例)

16. 表現領域の授業を実施される場合、どのようなことを工夫して授業をなさっていますか。
 []

17. 表現領域授業の面白さについて、お考えをお書きください。
 []

18. 表現領域授業の困難さについて、お考えをお書きください。
 []

19. 保育において表現活動を実施するにあたって、保育者養成校で経験・習得しておくよと思われる事柄は
 どのようなことがありますか、ご自由にお書きください。
 []

20. 本調査に関するご意見やご教示などございましたらお書きください。
 []

ご協力ありがとうございます。回収期日(2月26日)迄に同封の封筒にてご送頂きますようお願い致します。